



巻頭言

「巳年」に思う 自らの殻を破り「顧客価値経営」に向けた変革を進めるモデルにふさわしい組織へと新たな第一歩を踏み出したい ————— 2

日本経営品質賞 奨励賞受賞 ————— 3

“進取の精神”をモットーに新しい福祉の形を模索へ

「昨日より今日、今日より明日…」介護の仕事に日々の成長を目指す ——— 3

高齢者・障がい部門「グローバル人財サポート発表会・交流会」

コーンスープを召し上がれ! 獣害にもめげず収穫20本 ————— 3

かがやき農園だより 吹田竜ヶ池ホーム

先輩からのメッセージ ————— 4~5

山下明日香さん(認定こども園一津屋愛育園)/本田玲二さん(せつつ桜苑)

乳児ならではの小さな運動会 くるみ小規模保育園 ————— 4

防犯研修 不審者への第一声は丁寧、油断せず 岩戸ホーム ————— 5

絵本の世界に引き込まれ「絵本の会」ボランティア来園 東生野愛育園 — 6

わくわくデイ「笑顔の花(健康)」は咲いたかな!? ライフ・ステージ 舞夢 — 7

トピックス ————— 8



社会福祉法人 成光苑

2025
新年号

スコップ片手に苦戦するも「出てきたー!」 サツマイモ掘りに挑戦の4歳児

認定こども園千里丘愛育園の4歳児クラスは送迎バスで「大岩いも掘り園」(茨木市内)に出掛けサツマイモ掘り(主に紅はるか)体験に挑戦しました。(10月23日、25日:計49名)

子どもたちは前日から「でっかいのを掘るぞー」と意気揚々。到着するや広大な畑に入り、農園スタッフの説明を聞いたあとスコップ片手に無心に土を掘り始めますが、子どもにとっては苦戦する表情も(写真)。やがて「出てきたー見て!見て!」と歓声があちこちから上がり、大満足の収穫体験となりました。



お祭り法被を着込み撮影に大忙し 初参加のセラピー犬マハロ

高槻けやきの郷では「思ひ出づくり」をテーマに『第19回高槻けやきの郷秋まつり』が行われました(10月20日)。ご家族を招くのは5年ぶり。

令和6年の干支「辰年」にちなんでご入居者が大きな竜の絵に色付けした紙を張り付ける共同制作にもチャレンジ。同施設のセラピー犬マハロ(「ききょう」2022夏号に記事)もお祭り法被をパッチリ着込み初参加。人懐っこいマハロはみんなに撫でまわされ、大忙しの記念撮影コーナーでした。



共同制作



法被のマハロ

これがスティールパン!? ドラム缶から作られた打楽器

くるみ小規模保育園のクリスマス会で保育スタッフ2名がスティールパンを演奏しました(12月19日)。

見慣れない打楽器に「実物は初めて」とスタッフも興味津々。子どもたちにもよく知られるディズニー映画「リトル・マーメイド」代表曲「アンダーザシー」で使用されており、演奏が始まると大きな拍手と歓声が上がりました。よく響く音色に興味を持った子どもが叩く場面もありました(写真)。

(*)スティールパン トリニダードトバコ共和国で発明、ドラム缶から作られた音階のある打楽器。独特の倍音の響きを持った音色が特徴



一緒に楽しく作りましょ 「レインボースティック」

ココリス(障がい福祉サービス)では「第2回ココリス祭り」が行われ、ご利用者やご家族のほか、これまで同施設のサービスをご利用されていた方など87名が参加されました(10月12日)。

イベントの目玉は初企画のワークショップコーナー「レインボースティック」(写真)。「参加者と一緒に制作し楽しい思い出に」とのコンセプト。「100円ショップ」などで販売しているキラキラのホログラムシートやストローなど使って簡単に制作が楽しめます。開始直後から約40名の子どもさんがつめかけ「できた!キレイ!」と満足そうに保護者に見せる場面も見られました。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【高齢者施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【障がい施設経営方針】

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

【発行日】2025年1月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <https://swc-seikouen.or.jp/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻頭言



「巳年」に思う 自らの殻を破り「顧客価値経営」に向けた変革を進める
モデルにふさわしい組織へと新たな第一歩を踏み出したい

理事長 高岡 國士

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進に多大のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

新しい福祉の形を模索してきた結果
「日本経営品質賞」奨励賞

本年は千支で「巳」の年に当たります。巳年は、成長と変化の象徴とされ、特に「転換の年」や「物事が大きく進展する年」として知られています。「巳」は自らの殻を破り、変化を遂げること、つまり物事が一つの形を完成させ、さらに新しい段階へ進む準備が整った状態を示します。成光苑は創設以来、常に「困っている人がいればどのような人でも手を差し伸べる」という信念と進取の精神で様々な取り組みに挑戦。「10年後も地域から一番頼りにされる社会資源になる」を掲げ、2016年には次世代を担うメンバーで構成した経営品質向上活動プロジェクトを立ち上げ、成光苑の強みや独自性を明らかにするとともに、既存の福祉領域だけでなく、農福連携や商福連携、行政との協働による地域活動などの新たな事業展開を進めました。

その結実として、新しい福祉の形を模索し、変革活動に取り組み始めたことなどが高く評価され、昨年12月17日に、日本生産性本部2024年度「日本経営品質賞」奨励賞を受賞することができました。当賞は、顧客価値経営に向けた変革を進めるモデルとしてふさわしい組織を表

彰する制度であり、受賞を契機に新たな第一歩を踏み出そうとしているところでもあります。

将棋や甲子園球場にならない
法人創立100周年へ精進

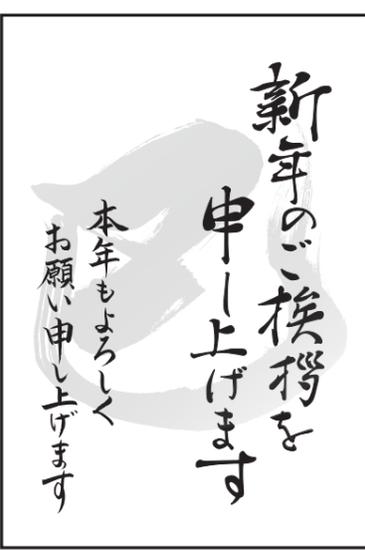
2024年にそれぞれ100周年を迎えた日本将棋連盟と阪神甲子園球場は昨年12月共催で、藤井聡太七冠(竜王・名人・他)と羽生善治九段による100周年記念対局が甲子園球場で指され、観戦してきました。

将棋と野球、静と動といった対極にあるコラボレーション企画ですが、共に100周年を祝い、それぞれの存在意義をアピールするという素晴らしい趣向であったと思います。成光苑も昭和25年に創設以来、75年が経過しており、願わくは、法人創立100周年を見据えて精進したいと考えています。

国民本位の質の高い国会審議で
7年度税制改正を

さて、毎年、「ききょう」新年号では、必ずといっていいほど、「税調(税制調査会)」関係の動向をお伝えしています。何故なら、税制改正大綱は税制改正法案の原案となり、令和7年の通常国会に提出されるからであります。とりわけ、自民党税調は税制改正について大きな権限を誇り、かつては首相も口を出せない「聖域」とされてきました。しかし、昨年10月の衆院選で自公が過半数を割り込んだこともあり、今年度は自民税調の立ち位

置は変わってきています。いわゆる少数与党として自民・公明両党により12月20日、令和7年度税制改正大綱が決定されました。今後の与野党による国民本位の国会審議に期待したいと思います。本年は「2025年問題」と言われているその年となります。国民の5人に1人が75歳以上後期高齢者の超高齢化社会を迎えることで雇用、医療、福祉といった日本経済や社会の広い領域に深刻な影響を及ぼす諸問題が引き起こされるといわれています。こうした状況にも対応できるよう成光苑においても、社会福祉事業の主たる担い手として、ワンストップサービスのさらなる充実に向けた事業展開を進めていきたいと考えております。職員一同一丸となって幅広いニーズに応えるための地域ニーズの把握やネットワークの構築を進め、地域の総合相談窓口機能を高め「地域共生社会」の実現に寄与してまいりますので、今後とも変わらぬご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。



「福祉フェス」に地域から106名が参加

もっと楽しみながら 防災力を高めよう

ライフ・ステージ 夢咲

ライフ・ステージ 夢咲(舞鶴市)で防災講演会や吹奏楽演奏などを盛り込んだ「楽しもっと! 夢咲フェス」(福祉フェスティバル)が開催され106名の地域のみなさんが参加されました(10月27日)。

講演会では、日本防災士会京都支部の防災士(*)田上雅一さんが「災害に備えて日常からできること」と題して『防災プチ情報』(ハザードマップ、防災アプリなど)の紹介や簡易トイレの使用方法も説明されました(写真)。自分なりの防災対策を考えることも大切」とアドバイスも。

地域ボランティア団体の模擬店や高校吹奏楽部による演奏、チアリーディングステージなどが同フェスを盛り上げました。

(*)防災士 十分な防災意識と知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人。社会の様々な場で防災力を高める活動が期待されている



桂三扇の話芸に湧く「わくわくデイ」

「笑顔の花(健康)」は咲いたかな!? ライフ・ステージ 舞夢

ライフ・ステージ 舞夢は、開設記念イベント「秋のわくわくデイ」を舞鶴市立社会福祉施設加佐地域福祉センターで開催し61名が参加されました(11月30日)。今回のテーマは「笑顔の花~笑い与健康~」。

メイン会場では桂三扇さん(福知山市出身)が上方落語を披露(写真中央)、「笑いは健康の源」というメッセージを織り込んだ話芸に満員の会場は笑いに包まれ、参加者からは「これからも笑顔を忘れず暮らしていきたい」といった感想が聞かれました。

ポスターセッション会場では、ご利用者とスタッフのスナップにコメントを添え事業所紹介や介護の仕事の魅力もしっかりアピール。福祉用具展示・健康測定コーナーも設けられました。



おっかい天ぶらのった「かき揚げうどん」おいしそう!

福祉への理解深める交流会に出店

岩戸ホームとサンヒルズ紫豊館は、福知山駅北口公園で開催の「介護の日大作戦」(福知山福祉人材PRプロジェクト主催)に「かき揚げうどん」の模擬店を出店しました(11月9日)。

岩戸ホーム・サンヒルズ紫豊館



模擬店「かき揚げうどん」の天ぶら食材は、かがやき農園(京都エリア)で昨年10月に収穫したサツマイモを使用。揚げたてをトッピングして「おっかいの(大きい天ぶら)がのっ」とたいへんな盛況ぶりでした(写真)。

このイベントは地域住民や各事業所職員が一堂に集まり、親睦や福祉への理解を深める機会をつくるのが目的。福祉に関する就職相談や高齢者の介護や生活の悩みごと相談のブースも設置。地域の支え合いや交流を促進する観点からも啓発活動に継続して協力したいと考えています。



野外コンサートで模擬店

せつ桜苑

せつ桜苑は摂津市立三宅柳田小学校運動場で行われた「第2回 野外コンサート」(柳田地区連合自治会主催)でホットドッグの模擬店を出店しました(11月17日)

このイベントは地域の人たちを繋ぐ場にもなっています。同施設はホットドッグ100個を準備し参加しましたが、「おいしい!」のクチコミが広まり即完売。担当スタッフは「販売数量を増やして来年もぜひ参加したい!」と意気込んでいます。



クチコミ効果でホットドッグ即完売

***** 絵本の世界に引き込まれる子どもたち ***** 東生野愛育園

地域ボランティアグループ「絵本の会」来園



東生野愛育園では、大阪市立生野図書館を拠点に活動しているボランティアグループ「絵本の会生野」のみなさん(6名)が来園されました(11月15日)。

今回は月齢別にペープサート(*)や絵本の読み聞かせを実演され、声の抑揚や表現力でその絵本の世界に引き込まれる子どもたち(写真)。集団で喜びを共有し、豊かな感受性や人の気持ちを思いやることの大切さを学ぶ機会にもなっています。

同園は、2017年4月に大阪市から民間移管されましたが、同ボランティアグループの「子どもと絵本をつなぐ活動」という目的に共感、その縁を引き継ぎ年2回来園されています。

(*)ペープサート ペーパーパペットシアターの短縮言葉で幼児向けの紙人形劇。表裏に異なる絵を描いた紙人形を用い表現豊かな紙人形劇が演じられる

認定こども園正雀愛育園

祖父母らと「楽しく遊ぼう」

玉入れ競争に「ガンバレ！」の大声援

認定こども園正雀愛育園は、4、5歳児クラス(計62名)の祖父母と地域老人会のみなさんを招き、近隣の摂津市立正雀体育館で「楽しく遊ぼう」を開催しました(10月30日)。

子どもたちは和太鼓演奏やパラバルーンを披露。また、一緒に巨大オセロゲームや玉入れ競争にも興じ(写真)、「ガンバレ!ガンバレ!」の大声援がこぼれ、楽しい世代間交流となりました。



世代間交流



認定こども園一津屋愛育園

いきいきカレッジ受講者のみなさん来園

鍵盤ハーモニカ「聖者の行進」に「すごーい！」

認定こども園一津屋愛育園では、令和6年度摂津市いきいきカレッジ(老人大学)を受講中のみなさん(講師含む12名)が来園され、鍵盤ハーモニカを披露されました(11月29日)。

みなさんは同いきいきカレッジの「せつづ桜苑講座(音楽にふれあう科)」(「ききょう」2024秋号に記事)を受講されており、鍵盤ハーモニカで「聖者の行進」を演奏(写真)、一条乱れぬ音色に「すごーい！」と歓声が上がりました。子どもたちも和太鼓「ダイナミック琉球」を力強く披露、「上手やなー」と感心されるなど音楽を通じた世代間交流となりました。

地域のスポーツフェスティバルに参加

***** 地域フェスタに園長ら保育スタッフ協力参加 *****

人気キャラの制作体験ブースに続々



認定こども園きりん愛育園

認定こども園きりん愛育園の高橋佳子園長と保育スタッフ3名は、吹田市立山田小学校グラウンドで行われた「第2回山田ふれあいフェスタ」

(吹田市山田中学校校区地域教育協議会主催)で制作体験ブースを担当しました(11月10日)。

同園は、アンパンマンのヨーヨーキットを100セット準備、長寿アニメの人気キャラクターとあって地域の親子連れや在園児も続々来訪(写真)。同フェスタでは屋台ブースやパフォーマンスステージも繰り広げられ、活気のある地域イベントへの協力参加となりました。

「宇宙戦艦ヤマト」などマーチング演奏



認定こども園一津屋愛育園

認定こども園一津屋愛育園の4、5歳児クラス(計50名)は、摂津市立味生小学校グラウンドで行われた「味生スポーツフェスティバル2024」(味生スポーツフェスティバル実行委員会主催)に参加しました(10月13日)。

「子どもからお年寄りまで楽しめるスポーツイベント」と銘打ち、阪神タイガースOB選手とのチャレンジ企画や誰でも自由参加できるグラウンド・ゴルフ、フリースローチャレンジなど各ブースは大盛況。メイン会場では、4歳児クラスはパラバルーン、5歳児クラスは「宇宙戦艦ヤマト」など2曲をマーチング演奏し(写真)来場者から温かい拍手。練習成果を披露する場として自信に繋がる経験となりました。

成果出始めた経営変革の実践を評価

社会福祉法人成光苑は昨年11月中旬に開催された日本経営品質賞委員会(日本生産性本部主催)で「日本経営品質賞奨励賞」(*)を受賞することが決定されました。受賞理由は顧客価値経営(2)が実践され、いくつかの変革活動の成果が出始めている状態が評価されたものです。

「進取の精神」をモットーに新しい福祉の形を模索へ

成光苑はこれまで「進取の精神」をモットーに、次世代に向け新しい福祉の形の模索や変革活動に取り組みしてきましたが、同法人の進むべき方向性を確認するため日本経営品質賞の申請に踏み切りました。8月初旬、高岡園土理事長、高岡土郎副理事長らと審査員のトップコミュニケーション。10月初旬には審査員と京都エリア・大阪エリア施設や現場スタッフとのヒヤリングを通して経営戦略の浸透状況を確認のうえ、審査チームによる最終合議が行われました。

成光苑では2015年、施設の次世代を担うスタッフが顧客価値経営の捉え方の学びをスタートし翌年、経営品質向上活動プロジェクトを編成、法人内の意識改革に着手しました。「10年後も地域から一番頼りにされる社会資源になること」をスローガンに、農福連携、商福連携、行政との協働による地域活動など新たな事業展開を推進してきました。

今回の奨励賞受賞を機に、フィードバックレポートを最

「昨日より今日、今日よりも明日…」 介護の仕事に成長を目指す

高齢者障がい部門

グローバル人財サポート発表会・交流会



高齢者・障がい部門では「令和6年度グローバル人財サポート発表会(会場:ライブ・ステージ 夢咲)・交流会(会場:舞鶴グランドホテル)」が行われ、12名の外国人スタッフ(フィリピン、ベトナム、インドネシア、タイ)が発表、各施設から外国人スタッフを含む53名が参加しました(11月15日)。

高岡園土理事長がオンラインで挨拶、「外国人スタッフのみなさんが日本の高齢者福祉を支えてくださっていることに感謝しています。これからも元気に頑張ってほしい」と激励されました。

発表者の一人、インドネシア人技能実習生のライラトウル ムナワロさんは『日本での生活』と題し「日本語を勉強することと介護の仕事に前向きに取り組むことで、昨日より今日、今日よりも明日…と、私の生活も豊かになっていくと信じています」と日々成長を目指すポジティブな姿勢を内容豊かに話されました。

この発表会は今回が3回目。外国人スタッフが日本で福祉を学びながら交流を深め、併せて日本語や介護知識などの習得を成光苑全体でサポートするのが目的です。外国人には言語や文化の違いがあり、日本人スタッフのきめ細かいサポートが重要です。結果的に長期間雇用、経験を積んだ人材確保が可能となり、介護の質の向上や施設運営の安定、職場の雰囲気づくりにもつながると考えられます。

高岡理事長 受賞コメントはこちらから



Japan Quality Award 2024年度日本経営品質賞 奨励賞

(*)日本経営品質賞 日本生産性本部が1995年に創設。優れた経営品質を実現し、持続的な成果を上げている企業や組織を表彰する。(*2)顧客価値経営 現代社会は絶えず変化し先の見えない時代に、顧客の視点から自らの組織を見直し、自己革新を通じて顧客にとつての価値を追求し続ける経営手法と考えられている。

動画コンテンツ <https://www.jqac.com/movie/>



..... かがやき農園だより

待ち遠しいなあ 春分の頃 絹さやなど冬野菜の苗植え

認定こども園 きりん愛育園

認定こども園きりん愛育園の5歳児クラス(27名)は、姉妹園の送迎バスで「かがやき農園プロジェクト」展開中の茨木市佐保地区の畑地に出かけ冬野菜(大根、絹さや)の苗植えをしました(11月20日)。



子どもたちが同園で種から育てた絹さやの苗を手に「(発芽から)大きくなったね」と口々に言い交わしながら丁寧に畝(うね)に植え替えました(写真)。初めは覚束ない足取りで畝の間を歩く子どもたちでしたが、これまでに苗植えや「ツルムラサキ」の収穫体験があり、農作業にも馴染んだ様子。春分を迎える頃、植え替えた野菜の収穫が待ち遠しい食育活動になりました。

種蒔きから育てたコーンスープを召し上がり! 獣害にもめげず収穫20本

吹田竜ヶ池ホーム

吹田竜ヶ池ホーム(吹田市)では昨年8月、種蒔きから栽培していたトウモロコシ(品種:オータムイエロー)を収穫、ご入居者など65名にコーンスープをおやつ時間に提供しました(11月8日)。

8月下旬、同施設の畑(かがやき農園)に苗を植え替え、成長を楽しみにスタッフが世話を続けました。そんな矢先の10月中旬の朝、トウモロコシの芯数十本とその皮が土の上に…。野生動物に食い荒らされた模様で、同市公式ウェブサイトではアライグマ(*)出没の注意喚起情報が掲載中でした。すぐに防獣フェンスを購入し、何とか20本収穫できました。

ご入居者から「コーンスープ大好き!」「トウモロコシ栽培から頑張ったの?」と労いの言葉も飛び出し、担当スタッフも報われた様子でした。

(*)アライグマ 北米原産の哺乳類で外来生物法の特定外来生物に指定(2005年)



調理風景



収穫直後

リーダーに求められる マネジメント力

マネジメント研修 保育部門

保育部門では、「地域一番店ネットワーク」(「ききょう」2024秋号掲載)の取り組み課題の一つ「マネジメント研修」(一般社団法人日本保育チームマネジメント協会主催)がCIVI研修センター新大阪東で(他企業・法人参加者含む)行われ、愛育園からは中堅リーダークラスの保育スタッフ(保育経験10年~20年)12名が参加しました。講師は同協会代表理事・上田まどか氏と前代表理事・吉田幸宏氏。(11月23日・24日)

「人生100年時代といわれる今、「自らやりたい!」という意欲を引き出し、スタッフ一人ひとりが個性を発揮し仕事を通してキャリアを形成、人生を豊かにしていくために重要となるのがマネジメント」と提唱されています。リーダー(受講対象者)はトップ(園長)の価値観・方針を共有し、自らが任された現場で判断を下し、それに基づいて進んで行動することが求められます。指示通りにやる経験だけでなく、自分で工夫し試してみる機会を設け、失敗しても再度考えて仕事を学ぶことを繰り返せる環境があることが大切。「チーム」としての保育現場では、経験、年代層、雇用形態も様々で、リーダーはそのような人たちをまとめる役割も担っていることから、グループディスカッションなどを通して、支援型マネジメント(*)としての人材育成の視点やアプローチ方法のポイントを説明されました。「私は保育の仕事が好き。他の保育士スタッフの強み(スキル・アイデア)や価値観も理解し、ともに人間の成長、組織の目標達成のために、早速できることから実践してみたい」といった感想が聞かれ、今後の組織全体のパフォーマンス向上に期待が高まります。

(*) 支援型マネジメント 仕事を通し一人ひとりの個性的な職務能力を育てること

不可欠な人材育成の視点

乳児ならではの小さな運動会

発達や遊びの要素を取り入れ親子のふれあい くろみ小規模保育園



くろみ小規模保育園(0~2歳児)は大阪市立東小路小学校体育館で運動会を行いました(11月19日)。これまで近隣姉妹園のくろみ愛育園(0歳~5歳児)と合同開催でしたが、乳児ならではの発達や遊びの要素を取り入れた運動会がやってみようという現場スタッフの提案が実現したもので、親子のふれあいを多く盛り込んだことも特徴。

日頃のリトミック・マット遊びなど、子どもたちがその時期に楽しんでいることやできるようになったことを保護者に見てもらおう種目と「洗濯物が大変だ」は、子どもを抱っこして協力しながら競う種目(写真)で「こんなに重く(大きく)なったんですねー」と我が子の成長を実感される言葉もあり、勝ち負け以上の喜びが感じられる運動会になりました。

白熱の巨大オセロゲーム

認定こども園正雀愛育園

認定こども園正雀愛育園の5歳児クラスは、同じ小学校区内にある認定こども園正雀ひかり園の5歳児クラスを招き、同園庭で交流会を行いました(11月11日)。最初は、お互いになじみにくい様子でしたが、巨大オセロゲームで勝負が熱を帯びてくると、以前からの仲良さ友だちのようにすっかり打ち解けた展開に(写真)。交流会はあっという間でしたが、4月からの小学校進学で友だちとの再会に期待と楽しみが膨らむ機会となりました。



他園児招き交流会

先輩からのメッセージ



山下 明日香
認定こども園 津屋愛育園
2024年度入社

豊かな感性を生かし
子どもたちの成長に自然体で共感したい
—自分のどんな所が
今の仕事に生きていて感じますか?—
私は、自分でも感受性が豊かだと思っています。子どもたちは、園の集団生活でも気づきや発見の連続だと保育者になってあらためて感じます。
子どもたちの些細な変化や頑張る姿勢に寄り添い、できなかったことができるようになったことへの達成感や成長に自然体で共感できるところが、この保育の仕事に生きていてと思います。



本田 玲二
せつづ桜苑
2024年度入社

幼少時から高齢者との関りが心地よく
介護の仕事に好影響
—自分のどんな所が
今の仕事に生きていて感じますか?—
幼い頃、曾祖母・祖父母に面倒を見てもらっていたので、高齢者との関りは心地よい時間であり、日常の些細な会話であっても大切にすることが自然に身につけているように感じます。
介護の仕事に携わる介助者としては、「ご入居者のネガティブな感情に対して、求められる最善の方法でどれだけ寄り添うことができるかを強く意識しながらお世話

をしています。

人と人を繋ぐ介護の仕事に誇りを持っています
一緒に頑張ろう

—学生の皆さんにメッセージを
世間では「介護の仕事=キツイ仕事」とネガティブな印象がまたまた色濃く残っているように感じることがあります。私は新卒1年目ですが、実際に従事してみると、ケアワーカーとご入居者の1対1の関係だけではなく、そのご家族や多職種が連携して「ともに幸せになれる」素晴らしい仕事だと誇りを持っています。
入社直後の不安も「教えてください」の素直な一言で先輩方は親身になって対応してくれますし、「コソコソと取り組めば将来的に自分の力ももっと役立つと思います。人と人を繋ぐ介護の仕事と一緒に頑張りたいです。」

育成・指導の先輩スタッフ自身も成長

新任スタッフを育てます!

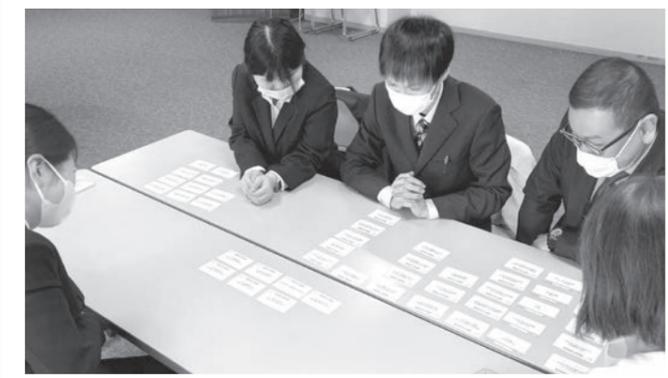
ネクストステージ研修 高齢者・障がい部門

高齢者・障がい部門では2024年度「ネクストステージ研修Ⅲ」が開催され、一次指導者(*)13名が参加しました(11月13日)。講師は増田知乃氏(有限会社レイズ取締役)。

ネクストステージ研修は、後輩スタッフに対する育成・指導研修で、同研修I~Ⅲを1年間通じて定期的に受講します。同研修Ⅲの締めくくりとして行われたグループディスカッションでは、受講した指導者から「多様な(新卒者、中途採用者、外国人など)人材が入社され、指導方法で悩んだこともあったが、スタッフが一定基準の仕事こなせるようになったときの喜び、私自身も成長できたように思います」との発言も聞かれました。

個々の強みを発揮してもらえる人材育成体制の充実に期待が高まっています。

(*) 一次指導者 成光苑では職場の中で、新任職員に対し指導者が1対1の関係で指導・教育・訓練を行う先輩職員のこと



不審者への第一声は丁寧に、油断せず 水拭きモップなど身近な備品で身を守る方法も

福知山署員迎え防犯研修 岩戸ホーム

岩戸ホームではスタッフ15名を対象にすずらんホール(地域交流スペース)で防犯研修が行われました(11月27日)。指導のため来応されたのは福知山署山岳駐在所と上川口駐在所から各1名の署員さんです。

不審者への初動対応は「犯人扱せず」、呼びかけの第一声は丁寧に、油断せずに(施設内の)別室などへ誘導する」のが肝心と説明。不審者が暴れた場合を想定したロールプレイング(役割演技)も大切に、バインダーや水拭きモップなど施設内の身近な備品で身を守る方法も指導されました(写真)。

「不審者に抵抗されたら…」と恐怖の現場を想像する女性スタッフの率直な感想もありましたが、ご入居者の安心・安楽な生活とスタッフ自身の安全確保のためにも危機管理意識が高まった研修でした。



スタッフとその家族参加 OK 「バドミントン同好会」発足

サンヒルズ紫豊館(福知山市)に昨年11月、「バドミントン同好会」が発足、地域の2つの体育館(写真は福知山市立六人部公民館体育館)で活動しています。

「身近なスポーツで体力の維持・向上を図る方法は…」とスタッフの提案で活動がスタート、スタッフの家族(子ども)も参加可能で、毎回15名程度が和気あいあいとシャトル(バドミントンで用いる羽根)を打ち込んでいます。若いスタッフは「いつか大会出場も!」と意気軒高。個々の思いが集まったスポーツ活動はからだのリフレッシュや親睦の場にもなり、相乗効果の広がりが期待されます。



リフレッシュや親睦の場に

園生活の思い出に 人形劇「11匹のねこ」鑑賞

くろみ愛育園

くろみ愛育園の5歳児クラス(12名)は、大阪市立こども文化センター内こども劇場(大阪市此花区)で人形劇を鑑賞しました(10月30日)。

劇場までは、保育スタッフが引率し初の電車移動で片道40分。「小さい頃からいろんなことを経験させたい」と中島みさを園長の方針からです。

人形劇は「11匹きのねこ」。子どもたちは絵本でも馴染みがあり「次は○○や!」と展開をバラしてしまうご愛嬌も。今回の電車移動・充実した設備での人形劇鑑賞は、



子どもたちにとって記憶に残る園生活の思い出になってほしいと願っています。